

# ちえおくれの幼児と幼稚園

竹内久美子



ちえおくれの幼児を普通の幼稚園で保育する場合、どのような

クラス三十一名。

指導、あるいは環境、集団が必要なのか。またその必要

十月二十六日

性についてはどうでしょうか。普通（公立）幼稚園における四歳

九・二〇、登園。母が帽子とかばんをかけ、Sはすぐ畳のコー

男児の活動実践例をあげて、そのよい点、問題点などをあげて考  
えてみたいと思います。

ナーの方へいく。他の園児には関心をもたないようすでままごと  
コーナーへいき一人で遊び始める。入って来てすぐにだまって遊  
び始めたので他の子どもたちは変な顔をしてだまって見ている。

## ・S児のプロフィール

三十八年十一月十七日生・男児

先生「新しいお友だちSちゃんというのよ」Sが一人で遊んで

普通ならば四歳児ですが、その発達等からみて当園の三歳児ク  
ラスに十月二十六日より通園をはじめました。はじめのうちは、  
週一〜二回、午前中で次第に園にいる時間を長くしていくように  
しました。

いるので皆それぞれの遊びを続ける。ままごとコーナーには年長  
の女の子が二人。時々Sが何か言うが、よくわからないので聞き  
直したりしている。Sはそれにはしらん顔でいる。

受け入れたクラスは、三歳児クラス二〇名、次年度は四歳児ク

九・四〇 公園へ行くので室内のかたづけをする。Sがいつま  
でも遊んでいるので、他の子が注意をするが、Sしらん顔で遊び

続ける。皆外へ出て待つているがなかなか来ない。そのうち外に出でジャングルの方へかけていってしまう。

新しい環境にはスムーズに入れるが、他の子どもには全く無関心で一人で熱中して遊ぶ。

### ・他の子どもとの関係

十一月十八日 S、昼のところで遊んでいる。ぬいぐるみの人形を持ったままYの方にフラフラとかかかっていく。Yはいやがっている。あ、どうするかな、と思って見ていたが、Sよろよろと倒れたとたん、そばにいたSaの手をつかんで「Yちゃんの勝ち」と言う。見ていた子どもたちも笑い出す。先生「あらおすもう？」と言うとSまた立っておすもうの真似をする。みていた子どもたちも、今度は僕……と順番に並んですわりみんなでおすもうごっこがはじまった。

子どものなにげない発言から、他の場面では「いじめた」とみられる現象が、楽しい遊びに発展した例です。子どもたちはSちやんておもしろい子だな、という印象を持っているようです。

二月四日 久しぶりの登園。玄関のところでYu、Sをみつめて「あ、Sちゃんだ、おはよう」S、大きな声で「おともだち、おはよう」ちよっとおしっこいってくるね」と言ってお母と手洗

へ行く、戻って来るとSa、Sの母に「ね、Sちゃんどうして休んだの？」と聞く。母説明する。Sかばんをおいたまま遊びにいき母に呼び戻される。子どもたちとても明るく、遊んでいるところへSが来ると必ずこういった場面がみられる。Sもよく友だちに話しかけるようになってきた。

二月四日 S お弁当の用意をなかなかしない。

S「先生、僕のお弁当ない」先生「あら、今暖めているでしょ、今お当番さんが持ってくるからすわって待ってね」と言ってお取りに行く廊下まで見に来る。お当番がお弁当を配ってSに渡すと、大きな声で「どうもありがとう」と言う。先生「Sちゃん、とてもじゃうずに言えたわね」と言う、みな次々にお当番にありがとうを言う。

一月頃より言葉が少しづつはつきり言えるようになり、他の子どもSの言っていることを理解できるようになって来た。挨拶とお礼の言葉といったことは身についている。皆に対して良い刺激を与え、Sの表情もとてもうれしそうでした。

### ・きまり

二月六日

S遊んでいて窓わくのところに登ってしまふ。



H「あ、いけないんだ」

Yu「あ、sちゃんあんなところに登ってる。先生——。sちゃんまだ新しいから知らないんだよね、いってきてあげる」と注意しに行く。

現象をとらえて「あ、いけない」と思い注意してしまうことがよくあります。つい忘れがちなことですが、わかるまで何度も教えてあげなければいけないということを子どもから教えられた例です。

十二月十三日（四十四年度）

S外からかけて来て、外のクツのまま室内に入ってくる。年中児がみており注意するがぬがない。年中児いっしょけんめいぬ

がしている。S廊下にねそべって泣いている。

くつのはきかえなどなかなか身につかない。子ども同士とてもよく面倒をみってくれるが言ってもわからないのでつい手を出してしまう。Sも理解できないのか、自分の気にいらぬことがあると、どこでもかまわずごろりとねころんで動こうとしない。Sに自分のやっていることときまりとの関係を理解させることがとても大切だと思いました。その後先生が現象をみつけてはこれ〇〇でしょ、だからsちゃんが〇〇しているのはいけないことですよ」と一つ一つ説明するようになりました。先生もSの気持ちを理解できるし、Sも少しずつ理解ができるようになったように思います。

### ・遊びへの参加

二月十三日

この日は最初から皆といっしょにリズムに参加している。全員で動く時、細かな表現はみられないがいっしょにかけまわったり、はったりしている。いっしょにできたことをほめるとニコニコしている。一人ずつスキップをする、他の子のときに出て来るの注意するとやめてすわってみている。

今まで、先生の意図的な活動にも関心を持たず、参加しようと



しなかったが、この頃になりやっと皆と同じ生活の流れをする  
とができるようになってきた。だがまだ気が向かないと全く参加  
しないこともある。

五月十七日（四十四年度）

校庭で全員がフォークダンスをする。一人だけ外へ出て来な  
い。帽子を渡し呼ぶとかぶりながら出て来る。皆といっしょに行

進して二人組で円を  
つくることができ  
る。最初の「線路は  
続くよ」Taと二人で  
楽しそうにできた。  
二曲目は途中でいや  
になったのかマイク  
の方へいっていじっ  
たりしている。

・おべんとう

十一月十一日

おべんとうのした  
く。

S なかなかしたくをしない。

Yu "Sちゃんおべんとうよ、早くしなさい" S来ない。先生"も  
う一度よんであげて" Yu "Sちゃん早く、おべんとう食べられな  
いわよ"と手をひっぱって来る。S自分でできる。カバンを下に  
おいたまま。Yuひろってかけてあげる。皆のが待ちきれず、食べ  
はじめてしまう。K "あ、Sちゃん食べてる"

Y "まだだよ、いけないんだ"とおべんとうのふたをする。  
S スプーンを持ったまま廊下へ出ていき寝てしまう。

一月十六日

おべんとうのしたくが始まる。S手を洗いカバンを持って来  
る。あいているところをみつけ、そこにすわる。当番が用意をは  
じめると自分でおぼんをとりに入れてしたくをはじめ。食事中  
時々立ってあちこちうろろする。歯みがきが済んでいすにもど  
りすわっていると、S "あ、誰か忘れたよ"と、先生のところ  
持って来る。Sのだと言うと、Sのところを持って行く。

先生 "Sちゃんかたづけは?" S立ってかたづけは始める。

十月十四日（四十四年度）

おべんとうのしたくがはじまる。Sなかなか用意しようとしな  
い。ほとんど皆が席に着いた頃カバンを持って来る。場所が見当  
たらないようです。

先生「どこかあいている所ない？」

ka「ここがあいているよ、sちゃんおいでよ」sが行き用意を始めるよ、ka「sちゃんいたずらしちゃう駄目だよ」この日は食事  
中も、かたづけもきちんときた。

お弁当の習慣がなかなか身につかず、とても長い時間がかかった。家庭でもやはり同じようなようすだったということだ。

## ・集会

二月七日

一番後にいすを持って入ってくる。入口があいているのを見て、s「あ、あいている、しめてしめて」

先生が話している間、足をバタバタさせたり、先生の言うことをそのまま大きい声で真似たりしている。時々後をウロウロする。

二月三日（四十四年度）

節分の集まりがあつて園長先生の話を聞く。とても上手に聞けた。園長先生から「あ、sちゃんきょうはじょうずだね」とほめられ、大きな声で「はい」と返事をする。

集会に関してもやはりかなり時間がかった。途中で他の遊びを始めたり、大きな声を出したりして長い間がまんすることができない。しかし四歳クラスの後半には、誕生会や避難訓練にもじ

ょうずに参加できるようになりました。

## ・Sの場合

①活動面ではとても活発で入園当初から、自分で次々と遊びを見つけていた。

②表情があまりなく、先生の誘いかけにも無表情でほとんど一人で動いていた。

③言語面での不自由さからか、理解不十分な点からか、自分の思い通りにならないと、攻撃的になったり、あたりかまわず寝ころがったりする行動がみられた。

入園した頃の印象としては以上のような点でした。幼稚園に来るようになり、子ども同士の関係における成長はめざましいものがあつたように思います。はじめのうちは、三歳児二〇名の中に一人Sがいるという印象が強く先生との接触もあまり要求しなっていました。そうしているうちにも、見たり、聞いたり、感じたりしてS自身吸収していったことは非常に大きかったように思います。そうしていきながら、他の子どもとの関係がづくにつれ、言語面でも、活動面でも、しつけの面でもその範囲が広まっていたように思います。（もちろんその中にはS自身の発達もあります）

三歳クラスの頃は、勝手気ままにふるまい勝手なことをしていたのが、次第に、クラスの中から少しずつではあるがはみでなくなってきた、ということはやはり集団の中での効果によるものだと思います。

普通幼稚園の中でこういった子どもを保育する場合、やはり一番考えなければならないことは、園での生活がその子どもにとってプラスになると同時に、その子どもが周囲に対してもプラスにならないといけないという点にあると思います。

Sの場合、周囲に対して、その時その時の現象ではどうしようもない場面もありましたが、幼稚園生活全体からみて、決してマイナスにはなっていないと思っています。しかしながらSにとつてはもつともつと一対一の先生との接触が必要だったようにも思います。がそのためには、クラス集団の適切な人数ということが関係してきます。さらに、その子どもをとりまく、物的環境はもちろんのこと、人的環境の面でも、園全体の教師が、(担任は言うに及ばず)その子どもをどう理解しているか、どう扱うか、ということが非常に重要なことではないでしょうか。

以上のようなことの上に立った指導ができるなら、ちえの遅れた子どもが、普通の幼稚園でものびのびとやっていくことができるのではないのでしょうか。

(神田幼稚園)

## お茶の水女子大学

### 幼児保育現職研究会の

おしらせ

幼児教育の現職者が保育の原理を研究するための定期研究会を開く予定ですので、希望の方は左の要領で申込んでください。

一、昭和四十六年四月より一年間、コースごとに週一回、定期的に開催する。

一、お茶の水女子大学の教官が担当する。

一、午後五時―七時とし、コースごとに曜日を決める。

受講者は一人一コースを原則とするが、二コースとっても差支えない。

一、定員 各コース約十五名以内

一、資格 幼児保育の現職経験のある者

一、申込方法 東京都文京区大塚二―一―一(〒112)

お茶の水女子大学 家政学部児童学科内 幼児保育研究室

室内内 現職研究会宛、氏名、生年月日、住所、現職を記し、封書で申込むこと。

電話 (043) 一三二五一、内線三三〇 幼児保育研究室

(電話問合わせは、水・金三時―五時にかぎる)

一、申込期日 昭和四十六年二月末日まで